

研究開発課題事後評価結果

事業名（年度）	次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業 （平成30年度～令和2年度）
研究開発課題名	糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業
分担研究開発課題名	ポリシアル酸認識機構を基盤とする精神疾患と癌の診断・治療の 技術革新研究
代表機関名	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学
研究開発代表者名	佐藤 ちひろ

【評価結果】

良い／総合的に計画した成果が得られた

【評価コメント】

学術的に興味深い成果を挙げており、ポリシアル酸認識機構を基盤とする精神疾患とがんの診断・治療の技術革新研究として、高感度PSA検出法の確立、完全ヒト化PSA抗体及びPSA低分子プローブの開発を達成した。特にがんの膜表面に発現するPSAの検出を可能にした点について評価できる。

一方で、世界的な優位性を確保するために必要な知財戦略を熟慮する必要がある。開発された抗体及びプローブ化合物等、本事業の成果を創薬領域での実用化への道筋が明確には示されなかった。精神疾患とがんの2疾患を対象としているため、どちらか一方に注力することによって実用化への方向性を着実に示して進めてもらいたい。

以上